

研究に専念する時間の確保に向けて ～大学における取組事例と意見交換～

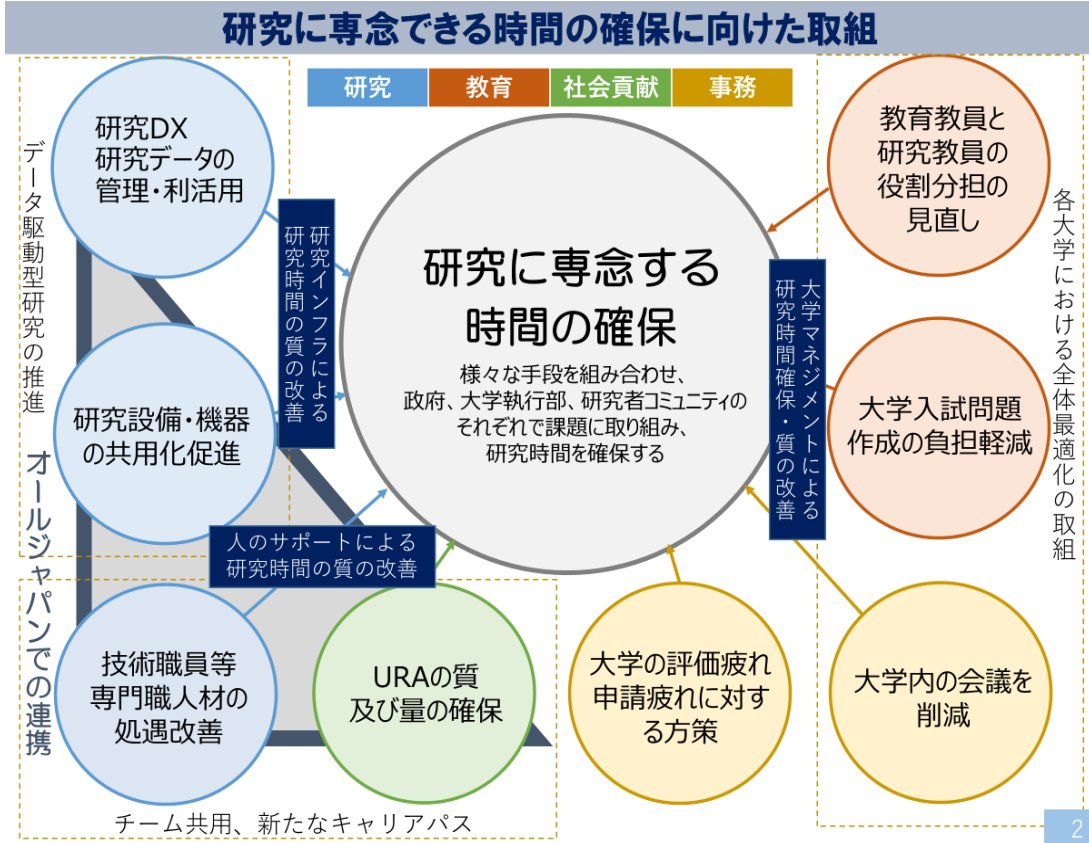


令和6年11月28日
内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局

研究に専念する時間の確保に向けて：これまでの木曜会合での議論の流れ

- 近年の我が国の研究力低迷、またキャリアパスの見通しが立たないことによる研究者という職業の魅力低下への危機感から、CSTIでは令和2年1月に「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」を策定。
- 「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」のフォローアップの一環として、木曜会合では**8つのテーマ**を設定して、「研究に専念する時間の確保」について検討を行ってきた。

- R4年度 ○ 「研究に専念する時間の確保」について検討を開始、中間とりまとめを発表
- R5年度 ○ 「研究に専念する時間の確保」の最終とりまとめ
→大学のマネジメントと関わりのある7つのテーマについて、「地域中核・特色ある研究大学振興総合パッケージ」と連動させる形で、「**研究時間の質・量の向上に関するガイドライン**」として同パッケージにおいて提示
- 「大学の評価疲れ申請疲れに対する方策」について検討し、「**評価疲れ**」について、アンケートを実施
- R6年度 ○ 6月に、「評価疲れ」に関するアンケート結果を公表

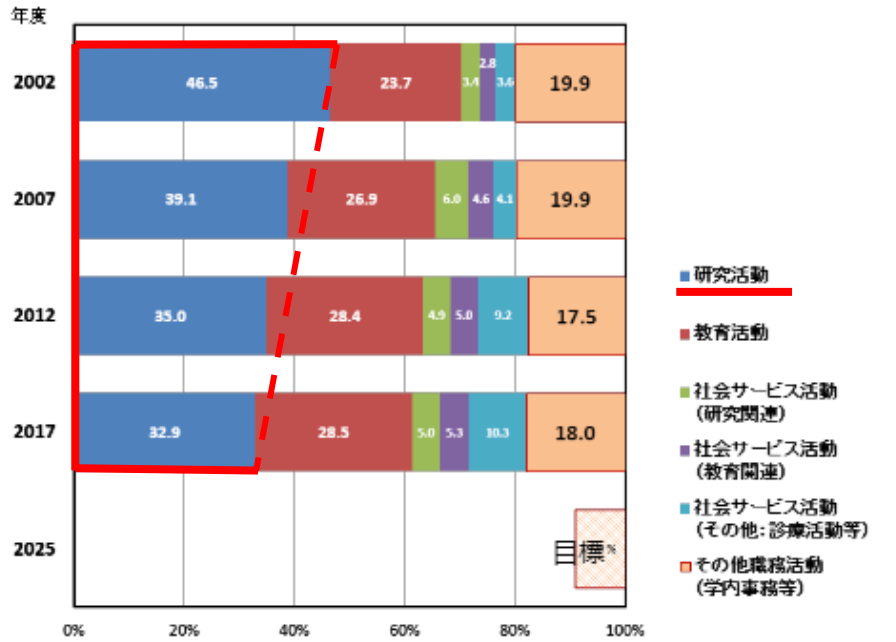


(内閣府 CSTI 科学技術政策担当大臣等 政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合 (令和4年度) 9月1日資料より)

研究時間に関する現時点での指標の数値等

【文科省 大学等におけるフルタイム換算データに関する調査（FTE調査）】

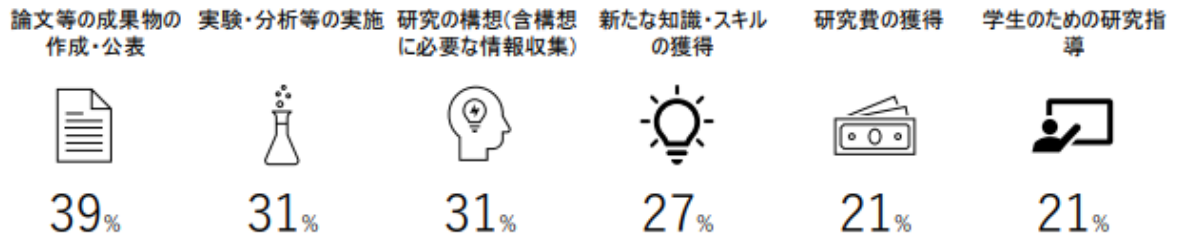
【主要指標】大学等教員の職務に占める学内事務等の割合：2025年度までに半減



(出典) 文部科学省「平成30年度大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」を基に作成

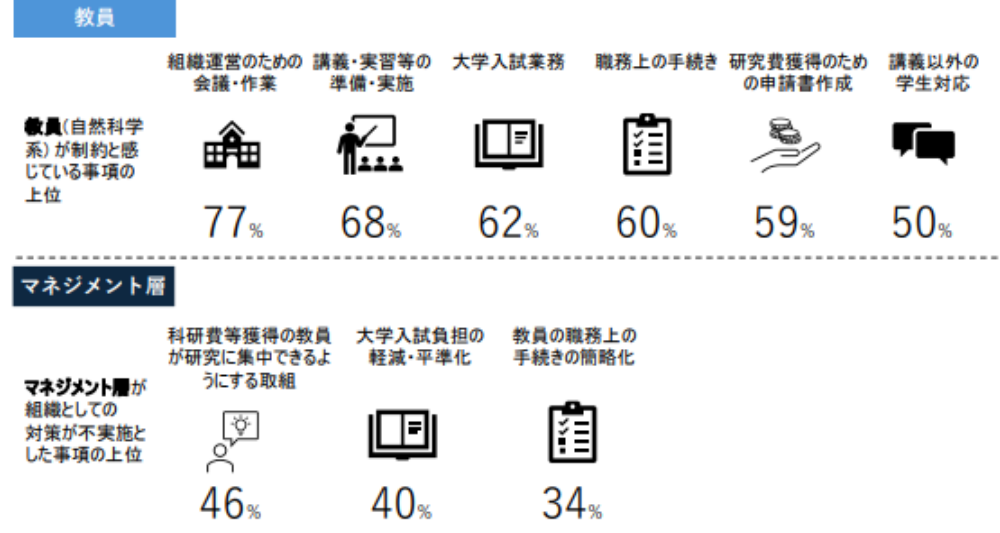
【NISTEP 定点調査 2023（概略）】

概要図表 9 (2023 年度深掘調査) 研究時間が不足した際に犠牲にされた活動の上位



注 1: 自然科学研究者全体の回答者についての集計結果。「回答 1~2 のいずれかで 9 あるうちの選択肢のうち当該項目を選択した回答者のウェイトの合計」/「その属性の回答者のウェイトの合計」で集計した割合を示す。上記以外の残りの 3 つの選択肢は、「研究室メンバーのリクルーティング」、「共同研究相手の探索・共同研究の実施」、「その他」である。

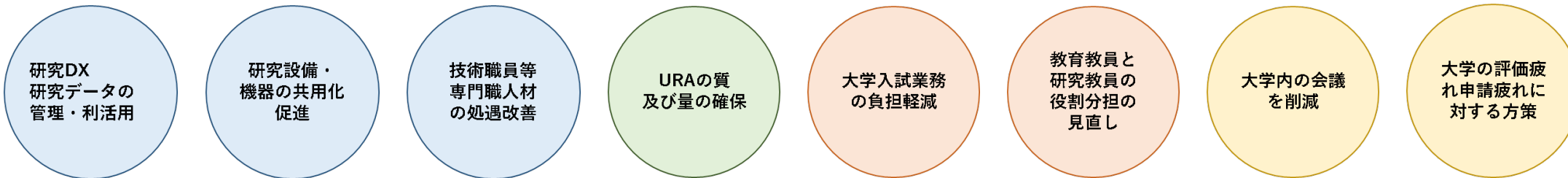
概要図表 10 (2023 年度深掘調査) 研究時間の制約要因として教員が認識している事項及び組織としての対策が不実施の事項の上位



注 1: 「当該項目について、制約になっている又は強い制約になっている(上段)、実施しておらずその予定もない又は今後実施を予定している(一部でも全学でも可)(下段)を選択した回答者のウェイトの合計」/「その属性の回答者のウェイトの合計」で集計した割合を示す。

研究に専念する時間の確保

8つのテーマ



研究インフラによる改善

人のサポートによる改善

大学マネジメントによる改善

各府省



指針等

研究設備・機器の共用推進ガイドライン
教学マネジメント指針（追補）
など

事業等

地域中核・特色ある研究大学振興総合パッケージ
→ 創発的研究支援事業、地域中核・特色ある研究
大学強化促進事業 など

大学等




関連するものを取りまとめ


「地域中核・特色ある研究大学振興総合パッケージ」において提示された「研究時間の質・量の向上に関するガイドライン」（令和5年）を受けて、それぞれのテーマについて、各大学における実施を促す。



対応策の検討に向けたアンケートの実施
※2023年度に実施、
2024年6月に報告・公表

本日は、2つの大学から研究に専念する時間の確保に向けた取組をご紹介します

 岡山大学： 研究者の研究時間に関する岡山大学の取組（那須学長）

 東京農工大学： 東京農工大学における「研究時間増加への取組」（千葉学長）